

医療連携新時代が始まった

理事長 石井 暎禧

医療連携は後戻りできない

今日、ある程度以上の規模の病院では、地域医療連携室を設置するのが、当たり前の時代となった。今年の診療報酬改定で紹介率加算がなくなったので、「これまでの紹介率向上の努力が報われないのはけしからん。地域連携が後退する」という声もあるが、もともと地域連携の必然性は診療報酬上得をするかどうかと言う話とは別の次元にある。これまで紹介率加算という誘導策によって、実際に連携室を作って活動する病院が多くなったのは事実であるが、やってみると紹介率や診療報酬とは関わりなく、地域連携室の大切さが病院内に理解されるようになり、病院にとって重要な、無くてはならない部署となった。従って診療報酬上の優遇策が無くともはやこの流れは変わることはない。厚労省もそう判断しているようだ。

新地域保健医療計画の意味するもの

今春、医療改革関連の諸法案が成立し、地域保健医療計画の意味が変わった。これまでの地域保健医療計画は、医療費抑制のため、医療圏ごとに、いわゆる必要

病床数を定め、病院の新設、増床を禁止するのが主要な役割であった。今回の改定による新バージョンの地域保健医療計画（平成20年から実施）では、日常診療圏で日常の医療は完結するように、主要な疾病ごとに病院が協力する体制を作ることが目的となっている。

もちろん計画立案するのは県であるが、実際の医療を行うのが個々の病院・診療所であり、県がそれに指示をすることはできないので、計画がこれまでと同様、絵に描いた餅になる可能性は大きい。しかし新医療計画がこれまでと違うのは、地域病院の医療情報の開示を伴うことである。ある病院の医療職種が何人か、どのような疾患の治療をやっているかなど、これまでは、患者さんが知ることはできなかった。診療科名、建物の外観ぐらいしか分からなかったと言っても過言ではない。しかしながら、各県で収集された医療情報がインターネットで開示されれば、これを一次情報として、更にさまざまな角度からの解説的な情報が作られてくることになる。現在でもさまざまな病院・名医

本紙タイトル『海燕』は、M・ゴーリキーの散文詩《海燕の歌》（1901）に由来しています。

その大意は以下のとおりであり、石心会のイノベーションマインドの象徴として採用しました。

……暗鬱な雲がたれこめ、雷鳴が轟く空と海。戸惑い騒ぐばかりの鳴らの群を尻目に、
海燕は激しく飛び交い、暗雲と雷鳴を切り裂いて一直線に飛翔する。

（編集部によるダイジェスト）



彼岸花

ランキングがマスコミで作られているが、これが拡大されて提供されると考えれば良い。その結果、患者の要求水準は現在よりもなお一層高くなると思われるが膨大な医療情報を患者自身が使いこなせるとは考えがたい。結局、自院の患者に責任を持った高い質の医療を提供し、それを理解させることが各医療機関の責任になる。

新時代の医療連携

新しい時代の医療連携の姿をイメージしてみよう。

これまで診療所と病院間の連携は、日常の外来医療と専門外来・入院医療という分業であり、開業医に患者さんを紹介してもらい、それを治療し、治療が終われば逆紹介をすることで事足りていた。しかしこれからの医療機関の分業は、より高い質の医療を保証する分業を目指すことになる。各診療科とも、医療の高度化に伴い、科内の専門分化が進んでいる。これに対応するには、もはや一病院では不可能であり、病院同士の連携が必要となる。病院において、自院に無い診療科を他院に補ってもらうだけでなく、例えば、その診療科を自院に有していたと

しても個別専門医を他院に補ってもらう協力関係を作らなければならない。このような関係はこれまでも自然発生的には構築されてきたが、今後は意識的に、つくる必要がある。

日常診療圏における完結的な医療連携が、新医療計画の骨子だとすると、その中で各医療機関がどのような役割を果たすのか、明らかになるような地域医療計画が望まれる。そのためには、まず各医療機関が自分の医療能力をはっきりと認識しなければならない。現状は自院の中ですら他科の実績・能力を十分に知っていない状況であり、これを克服しながら、地域連携パス作りなどを通じて、情報を共有化し、地域の医療資源を知り、医療の質をたかめる医療連携としたい。

国の医療政策の建前は、医療資源の集中・集積をうながし、質の向上と効率化をはかるというものである。そのため、疾患ごとに中核的医療機関、補助的医療機関を明確にし、連携や役割分担をすると想定されている。しかしこれは、国や自治体が上から指示してできることではない、あくまで、各医療機関の自発性に任されているだけでなく、これまでのような、補助金等の政策誘導も今後は少なくなることを考えると、きわめて困難なことを考えられる。結局各病院の主体性・能動性が新医療政策の運命を決めることになる。虫の良い国の方針だと言うほかないが、現状況下では、それ以外に立てようがない正しい方針であることも間違いない。

だから我々はいやおう無く、この流れに沿って、高まる一方の患者の期待水準に応える為に個別医療機関の能力をなお一層高めると共に、これまで述べてきたような重層的な医療連携を緊密に展開する必要がある。

新緑会事業所の紹介

新緑会理事・事務局長補佐 太田 一也

新緑会(しんりょくかい)の事業所は、横浜及び立川に立地しています。前号では、サイバーナイフセンターが記事になりましたが、今回はその全体像のアウトラインを紹介したいと思います。

『立川若葉町脳神経外科』は、有床診療所ですが、この地域の脳神経外科の中心的な医療機関でもあります。脳神経外科、整形外科、循環器科を標榜し、救急、脳ドック、訪問リハビリにも力を入れています。

『立川介護老人保健施設わかば』は、入居100床の他、デイケアを実施しています。開設以来、特にリハビリに力を入れた運営を行ってきました。

訪問看護ステーション等の在宅部門は老人保健施設内にあります。

『訪問看護ステーションわかば』は、立川市、小平市、国立市、国分寺市の各地域へ訪問に出かけ、24時間、365日の対応を行っています。スタッフの平均年齢は30歳台と若いのですが、経験豊富な人材がそろっています。

『ケアプランセンターわかば』は、法人内の各施設との連携を十分に生かした、医療に強い事業所で、看護やリハビリの視点を生かしたプランを心がけています。

在宅介護支援センターは、『立川市北部東わかば地域包括支援センター』として立川市の委託を受け業務にあたっています。当センターは立川市の栄町、若葉町を担当しています。

『立川ホームヘルパーセンターわかば』は、立川市、小平市、国分寺市を中心に在宅

介護を実施しています。この地域は道幅が狭く、自転車での訪問が中心です。

横浜地区の事業所『新緑会脳神経外科』は横浜市旭区に位置しています。サイバーナイフセンターへのアクセスを考慮し、新横浜駅に近く、東名高速に直結した保土ヶ谷バイパスのインターチェンジに近い、環状2号線沿いに開設しました。

新緑会脳神経外科は、脳神経外科、整形外科、循環器科を標榜し、サイバーナイフセンターの他、外来診療、外来リハビリ、訪問リハビリ等を行っており、地域に信頼される医療機関を目指しています。

新緑会が本年五月、石心会グループ入りしてから、横浜地区においては、川崎幸病院、川崎胃腸病院との間で患者さんの紹介を通じた連携や人事交流が行われています。立川地区においても、狭山病院との人事交流をめざし、狭山病院スタッフによる施設見学を実施しています。今後ともグループの一員として交流、連携を深め、地域医療の充実に貢献してゆきたいと思っています。

なお、新緑会各事業所ではスポーツ同好会の活動も盛んで、そのうちの一つ、「わかば健康クラブ」ではマラソンを主な活動とし、立川マラソンをはじめ多数の大会に参加し、来る11月27日には、河口湖日刊スポーツマラソンに参加する予定です。その他、フットサル、バトミントン等も盛んに活動していますので、腕に覚えのある方の挑戦をお待ちしております。

★トピックス①

理事会の動き

去る、9月29日石心会理事会が開催され、狭山病院の青山寿久院長が、空席となっていた副理事長に選出されました。その席で、提案者の石井理事長からこの人事は石心会の次の時代を視野に入れた人事であるとの説明がありました。

又、組織の拡大に伴って、理事会を強化する必要があるとの認識から、新しい理事として高田三成本部事務局管理部長、持田和夫狭山病院事務部長の両名を、新監事として石井敏勤氏を評議員会に推薦することとし、翌10月18日に開かれた評議員会で承認されました。

■石心会法人役員名簿

(平成18年10月23日現在)

- ・理事長：石井暎禧
- ・副理事長：青山寿久(狭山病院院長)
- ・常務理事：辻田征男(本部事務局長)
- ・理事(アイウエオ順)：
 - 朝倉裕士、岩井良成、河村正敏、
 - 栗本義直、小林和彦、穴戸寛治、
 - 杉山孝博、高田三成、平田 滋、
 - 持田和夫
- ・監事：黒岩卓夫、石井敏勤

★トピックス②

SCU 始動!

川崎幸病院 院長／脳血管センター長
岩井 良成

皆さん、SCU(脳卒中ケアユニット)をご存じですか。SCUとはモニタリングが高度な、脳卒中集中治療室の事で、本年4月の診療報酬改訂で初めて5,700点(DPCでは4,006点)の加算が認められました。川崎幸病院では、脳血管内治療科の津村部長を中心として、多くの病院スタッフの協力の下、わずか2ヶ月間の準備期間を経て、本年7月1日に無事開設いたしました。このSCU開設には、経験5年以上の神経内科医又は脳神経外科医の専任常勤医師、看護基準として常時3:1、SCU専属の常勤PT又はOT1名等の非常に厳しい施設基準をクリアしなければなりません。その施設基準のハードルが高いため、神奈川県下では当院のSCUが最初に

認可された施設であります。

私は、昭和63年4月川崎幸病院に赴任し脳神経外科を立ち上げました。脳神経外科開設以来、脳卒中の急性期診断とその治療を重視し、常に急性期の脳卒中の診療が可能な体制をとってまいりました。現在、川崎市内で急性期脳卒中の患者さんの受入数は1,2争う施設となっており、地域におきましても救急隊を始め、開業医、近隣の病院医師、住民より脳卒中の診療において厚い信頼を得ているものと自負いたしております。今回SCUを開設することにより、これまで以上に脳卒中の患者さんの治療効果を高め、地域の脳卒中医療に貢献せんものとスタッフ一同一丸となって頑張っております。

★トピックス③

狭山地区で新しい施設作りの動き

■通院透析センター(名称未定)

平成20年3月開設予定

近年狭山地区では、人工透析の通院患者さんが増加し、現在さやま総合クリニック4階にある透析室では収容しきれなくなりつつあります。その為、独立した建物を建築して同時透析の能力を向上させる事になりました。建物延べ床面積は約600坪、同時透析能力は、120床(120人)になります。これは、面積、能力共に現在の約2倍になります。

建築場所は、現在の地域ケアセンターの所在地になりますので、建築工事に先立ち、地域ケアセンターが移転する事になります。

■地域ケアセンターの移転

平成19年6月移転完了

地域ケアセンターは現在地と前面道路をはさんで反対側の土地に新築移転致します。

新しく制度化された「地域包括センター」は新しい建物で7月1日にオープンします。

■健康管理センターの新設

平成20年8月開設

増加しつつあるドック・健康診断のニーズに応える予防医療の拠点として、さやま総合クリニックの4階フロア(現透析室移転後のフロア)を改装して健康管理センターを開設します。

《書評》

医療崩壊「立ち去り型サボタージュ」とは何か?

小松秀樹 朝日新聞社 ¥1,600

理事長 石井 暎禧

改善を促すための医療批判が、状況を改善するどころか、状況を悪化させている。このパラドックスを鋭く突いた本がある。虎ノ門病院の現場の医師による「医療崩壊」という本である。

これまで、医療事故や医師のスキャンダルにしか目を向けなかったマスコミの論調に最近変化が生じた。地域における産科・小児科体制の崩壊がニュースとなり、これが産科・小児科に留まらず、病院医療、地域医療の崩壊のまえぶれとして、一般国民に知られるようになってきた。このきっかけの一つが、「日本の医療機関は二つの圧力にさらされている。医療費抑制と安全要求である、この二つは相矛盾

する」とはじまる小松医師の著書である。この中の「立ち去り型サボタージュ」という表現がマスコミ等でも使われ、状況を鮮明にした。外来の頻回受診、社会的入院という日本医療の歪みを生んだのは病院医療の軽視であり、医療費抑制策によって「崩壊」といわれる状況に至ったことが痛感される。読みやすい本ではないが、この状況を多角的な視点から、検証しているので、一読をすすめたい。



無人参

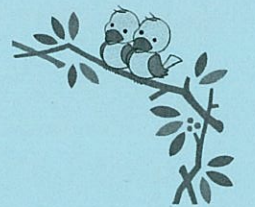
《学問のすすめ》 ※ 旧来の紙面構成を見直し、各職場で行っている研究発表を全体の動きが解るよう一覧表にしました。今回は紙面の関係で医師の研究発表（7～9月）より、一部のみの抜粋です。
 — 編集部 —

科	演者・著者	演題名	学会名	年月日
■川崎幸病院				
内 科	沢 丞	メタボリック・シンドロームの病態生理と代謝	エキスパートダイエットン養成講座	7/8,9
	沢 丞	外来通院2型糖尿病患者におけるstaggered SMBGの有用性の検討	第23回神奈川糖尿病研究会	7/15
	沢丞、他施設医師12名	川崎市における糖尿病神経障害の実態調査	第23回神奈川糖尿病研究会	7/15
	中島 豊	Two cases of Fabry disease complicating with impaired peritoneal function	第11回国際腹膜透析学会議 (ISPD)	8/25~29
	沢 丞	運動療法について	日本糖尿病療養指導士認定機構 第7回講習会	9/23
外 科	関川浩司	進行再発胃癌患者の終末期における在宅医療の関わり	第30回神奈川胃癌治療研究会	7/8~9
	高橋保正	TS-1 + Biweekly Paclitaxel併用療法が奏効した癌性腹水を伴う切除不能胃癌の一例	第30回神奈川胃癌治療研究会	7/8~9
	北村雅也	Inflammatory myofibroblastic tumor(IMT)の1例	第61回日本消化器外科学会定期学術総会	7/13~15
	高橋保正	当科における鼠径ヘルニア手術の現況	第61回日本消化器外科学会定期学術総会	7/13~15
	北村雅也、高橋保正、河原祐一、後藤学、関川浩司	ポスターセッション「大腸良性4」	第61回日本消化器外科学会定期学術総会	7/13~15
	北村雅也、高橋保正、河原祐一、後藤学、関川浩司	口演：鼠径部の解剖を重視したTEPP (Totally extraperitoneal preperitoneal repair) 法によるヘルニア根治術	第116回神奈川県臨床外科医学会集談会	9/30
	高橋保正	吻合部静脈瘤破裂を契機に診断された上行結腸癌術後多発転移の一例	第61回日本大腸肛門病学会総会	9/29~30
	津村貢太郎・榮樂直人・岩井良成	潰瘍性大腸炎がステント留置術 (CAS) に及ぼす影響についての検討	第12回日本血管内治療学会総会	6/30~7/1
大動脈・心外科	青木雅一	Challengers' Live Demonstrations 06	Challengers' Live Demonstrations 06	7/1
	山本 晋	座長	第139回日本胸外科学会関東甲信越地方会	9/1
	和田真一	Transapical aortic cannulation for Cardiopulmonary bypass in typeA aortic dissection operations	The Journal of Thoracic and Cardiovascular Surgery	8月号
	山本 晋	ライブ	CCT 2006 Surgical	9/1
循環器科	猪原 実	胸部外穿刺導入後のペースメーカー植込み術における院内合併症の検討	第21回日本不整脈学会学術大会	7/7~9
	菊池 正	PCI後Postcardiac Injury SyndromeをきたしたCTOの2例	TOPIC2006	7/20~22
放射線科	信澤 宏	子宮良性疾患	画像診断リファレンス 泌尿器・婦人科疾患のCT・MRI	7月号
	信澤 宏	腹部（骨盤泌尿器）領域におけるMDCT	クリニシアン 画像診断最前線	9月号
麻酔科	高山 渉(大動脈/山本晋、他施設4名)	クリオグロブリン血症合併患者に対する大動脈基部置換術の1症例	第11回日本心臓血管麻酔学会学術大会	9/16~17

■狭山病院				
内分泌代謝内科	小野田教高	副甲状腺PEITを成功させるために	麻生飯塚病院	7/20
	小野田教高	PHT測定法の変遷	埼玉副甲状腺研究会	7/21
	小野田教高	副甲状腺PEIT地域連携バスを運用して	副甲状腺インターベンション学会	9/2
	小野田教高	副甲状腺局注療法ガイドライン2006年版 (案)	副甲状腺インターベンション学会	9/2
	小野田教高	ビタミンB1と栄養不良の関係・ビタミンB1欠乏症による脚気心	BMC研究会	9/22
外科	菅野壮太郎	右胃大動脈-冠動脈バイパス後、経皮内視鏡的胃造設術を安全に行うには	HEQ研究会	9/30
	小林直之	小腸形質細胞腫の1例	日本消化器外科学会	7/14
	桂田純二郎	PETで指摘された直腸癌術後小腸転移の1例	日本消化器外科学会	7/13
	桂田純二郎	右胃大動脈を用いた冠動脈バイパス術後の胃癌に対し胃門側胃切除術を施行した1例	外科集談会	9/9
整形外科	正岡智和	手に発生した血管平滑筋腫の1例	埼玉手の外科研究会	9/9

■新緑会脳神経外科				
脳外科	佐藤健吾	頸髄血管芽腫に対するサイバーナイフ治療 (シンポジウム)	第15回日本定位放射線治療学会	7/21~22
	佐藤健吾	小児患者に対するサイバーナイフ治療 (シンポジウム)	第15回日本定位放射線治療学会	7/21~22
	佐藤健吾	浸潤性悪性海綿静脈洞腫瘍のサイバーナイフ治療-放射線治療の立場から- (シンポジウム)	第15回日本定位放射線治療学会	7/21~22
	佐藤健吾	神経膠細胞腫に対するHypofractionated Stereotactic Radiotherapy (シンポジウム)	第15回日本定位放射線治療学会	7/21~22

ミュージック・サロン



■さやま総合クリニック ヘルシーコンサート♪

従来毎週土曜日に行っていたヘルシーコンサートを一旦終了し、新しいアーティストメンバーにより、月一回、第一土曜日に行う事になりました。今回はその第一回目の報告です。
 マリンバ、ヴィオラ、ピアノのトリオによるオペラ名曲の調べが会場の聴衆を魅了しました。

・ 10/ 7 (土)

出演：山崎史子さん(マリンバ：国立音楽大学卒) 斎藤麻衣さん(ヴィオラ：東京芸術大学卒)
 村沢裕子さん(ピアノ：武蔵野音楽大学卒)
 曲目：愛の言葉(カサド) 歌劇「カヴァレリア・ルスティカーナ」より間奏曲
 情熱大陸 川の流れるように 他

☆ヘルシーコンサートのいわれ

2003年3月、さやま総合クリニックの院長に就任した青山医師(現狭山病院長)が、クリニックを診療の場としてだけでなく、地域の人たちの文化的な交流の場にしたいと考え、私財でピアノを購入して提供するとともに、毎週土曜日の午後からピアノ演奏を主体にした「ヘルシーコンサート」を開催することを決めました。ホームページにも紹介していますが、このピアノは世界最高峰といわれる「スタインウェイ アンド サンズ」のコンサート用グランドピアノで、2000年のショパンコンクールで圧倒的な実力で一位優勝した中国のピアニストコンディ・リが練習用に愛用したものです。

■川崎幸クリニック・川崎幸病院 第16回うるおいコンサート♪

ジャズスタンダードナンバーからシャンソン名曲まで、ピアノとクラリネットのデュオによる美しい調べを会場の皆様にお届けしました。

・ 9/16 (土)

出演：大野哲哉さん(クラリネット) 寺寫香織さん(ピアノ)
 曲目：私のお父さん 恋とはどんなものかしら 愛の賛歌 夏の思い出 など(全6曲)

☆患者さんからのご好評にお応えて、「うるおいコンサート」は従来の年2回から年4回の開催にさせていただきますことになりました。

■立川介護老人保健施設わかば 敬老会コンサート♪

入所者の皆様とご家族は本格的なジャズバンドの迫力あるサウンドを満喫されました。

・ 9/23 (月)

出演：国立音楽院MT(音楽療法) アンサンブルThe VANS(25名位)
 池田公生&お洒落倶楽部(6名)
 曲目：ピア樽ボルカ TicoTico ドリームシングシング リンゴの木の下で
 東京ブギウギ 川の流れるように
 他



《趣味探訪》

JAZZ道 聴いた! 観た! はまった!!

狭山病院 緩和医療科部長 岡本 信也

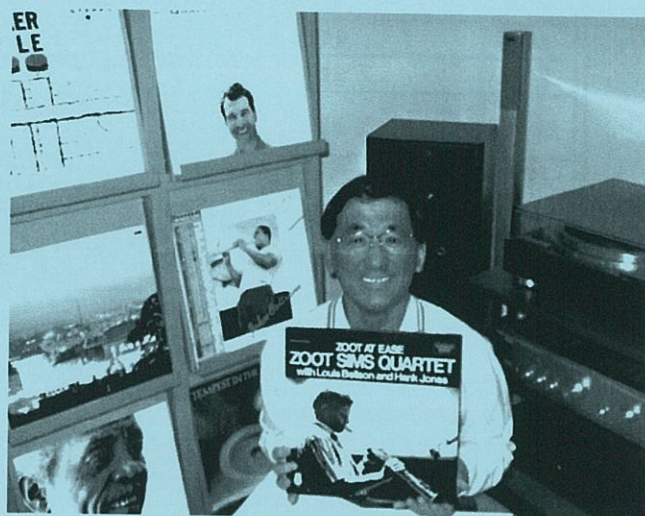
なれぞめ

私がJAZZに出会ったのは、もう33年前、高校1年生になったばかりの時です。中学時代はロックにはまっていましたが、クイーンの登場になじめず、何か新しい音楽をと悶々としているときに、友人が東京高円寺のHOT HOUSEというJAZZ喫茶に連れて行ってくれました。JAZZ喫茶とは現在ではほぼ絶滅種に属する希少動物のような存在ですが、当時は花盛りで、私が住んでいた吉祥寺から中央線沿線にも多数のお店がありました。その扉を開ければまさに異空間! 煙草の煙がもうもうたる中、大音響のJAZZの響きの中でコーヒーをすすりながら、JAZZに聴き入っている場所。喫茶とはいっても、もちろんカップルは皆無で、私語は厳禁、だいたい1杯のコーヒーで3時間ぐらい粘っていました。その3時間でLPレコード9面分の演奏を一音も聞き漏らすまいと食い入る様に聴き、JAZZの音の知識を増やしていく修行の場だったのです。そのようなJAZZ喫茶に、私が初めて足を踏み入れたとき、何かなじめない、ロックの様な音楽に出会い、これがJAZZ? という感じで、正直がっかり。この時かかっていたのはマイルス・デイビスの当時(1972年ごろ)のものでしたが、今聴いてもピンとこない演奏で、この時、JAZZをあきらめなくて本当によかったと思います。少し引き気味の私に友人はJAZZの廉価盤(1枚1,100円)を買うことを勧めてくれて、小遣いの中から、3枚のレコードを買い、JAZZ鑑賞への入り口に立つことができました。

魔(?)の道へ

しかし、真の意味でJAZZの洗礼を浴びるチャンスは、吉祥寺のJAZZ喫茶FUNKY(今なおJAZZ BARに变身して健在)で訪れました。そこで出会った一曲は、私のその後のジャズ人生を決定付けたと言って過言ではありません。その曲はジョン・コルトレーンのマイ・フェイヴァリット・シングスでした。映画サウンド・オブ・ミュージックの中でジュリー・アンドリュースが唄ったミュージカルの名曲(最近JR東海のCMで流れました)をまさにコルトレーンのオリジナル曲であるかのようにソプラノサックスで歌い上げた傑作です。この曲は何回か録音されていますが、ぜひお聴きになるならセルフレスネスというアルバムの中の演奏(ニューポート・ジャズフェスティバルで1963年実況録音)をお勧めします。

美しく、かつ激しい演奏で私は一番好きです。



JAZZとのお付き合いはそれから30年以上続いています。お付き合いの仕方は2通りあります。1つめは好きなレコード(CD)を買い、自宅のリスニングルームで眺め、そして聴く事。これなら世界最初のJAZZ録音からおおよそ90年間の、伝説の巨人から新鋭まで数限りないミュージシャンが残した財産を聴く事が出来ます。又JAZZの中にはディキシーランド、スイング、モダン、フリー、ビッグバンド、ボーカルとジャンルがあり、様々な音楽を楽しめます。音を聴く媒体としては、LPレコードは1990年ごろにほぼ絶滅し、新譜はCDでしか聴けなくなりましたが、過去のレコードの名盤は多くはCD化されています。でも私にとってはLPレコードが一番! 素敵なジャケットデザインの魅力を味わうにはCDの小さなサイズでは無理です。そして、思うになんと粋なことでしょう。レコードはA面、B面に分かれていて、片面を聴く時間がちょうど20分。集中して聞くには真にぴったりの時間で終わるのです。

それでは、こんなに素敵なLPレコードを今どうやって買うかをお教えしましょう。道は、二つ。中古レコード店(ディスクユニオンなど)か、ネットオークションかです。最近ネットを探すと、レコード店何軒かを何年回っても見つからないようなレアものが、引っかけられるようになってきました。そんなこんなで私が集めたJAZZのレコードは今、1,400枚ぐらいになっています。CDも500枚を越えました。昔のJAZZ喫茶は大体レコード3,000枚以上は所有していたようですので、もう少し増やして、いつの日かJAZZ喫茶が開けたらなあ、なんて思っています。正に魔の道に踏み込んだといえるかもしれません。

ジャズを観る

2つめの付き合い方は、コンサートに行くことです。

もしあなたが、街中のジャズクラブで生演奏を楽しむのであれば、南青山Blue Noteがお勧めです。ホームページで新旧の海外ジャズメンの出演を確認でき、素晴らしい生演奏に出会うことが出来ます。

又、野外のジャズフェスティバルで楽しむ方法もあります。1986年から10年ほど山中湖畔で開かれたマウントフジ・ジャズフェスティバルは素晴らしい思い出です。野外ではありませんが、やはり1986年から今も続いて毎年秋に開かれているコンコード・ジャズフェスティバル・インジャパン、1990年から1年おきに開かれ10人のピアニストが一堂に会する100Gold Fingersは内容が充実しており、素晴らしいです。これらのライブアルバムCDもいくつか出ています。

最後に、私の大好きなミュージシャンを1人あげるとすれば、ズート・シムス(テナー・ソプラノサックス)、もう亡くなりましたが、ほとんど駄作の無い人で、寛ぎのあるスイングなプレイは心に安らぎを与えてくれます。好きなアルバムは、ズート・アト・イーズ(1973年録音)、最高です!

これからJAZZを聴いてみようと思う方、今もJAZZが大好きで一緒にライブに行こうと思う方、遠慮なくお声かけください。

*文中、演奏家名や曲名について、数が多いので注釈をつけるのをやめました。

ご不明の点があればインターネット等で調べてみることをお勧めします。

—編集部—

★トピックス④

【川崎幸病院】

- 7月1日 リハビリテーション室100㎡に拡張
- 7月16日 医学生のための「臨床研修指定病院合同セミナー」参加 東京ビッグサイト
- 7月22日 第15回うるおいコンサート（バイオリン・ピアノ・フルート演奏）
- 7月29日 納涼祭（参加者1,000名超）
- 8月1日 言語聴覚室設置
- 9月7日 川崎幸病院大宮町移転会議再開
- 地域出張講演 9月30日 パークシティ内自治会集会場にて『心肺蘇生とAEDの使用方法』（講師：救急部医長／三村琢也医師）
- 院内勉強会 9月15日『院内感染と耐性菌』（講師：BML安全性試験部細菌学課長補佐／霧島正浩）
- 放射線科主催勉強会 7月5日,7日『MRI検査安全教育・放射線の被曝と防護について』（講師：放射線科員／藤田真由美・林口登）
- NST委員会主催勉強会
 - 7月14日, 8月23日, 9月1日 『NSTとは』（講師：大塚製薬MR担当／吉岡小都子氏）
 - 9月20日 『栄養と輸液の第1歩～基礎編～』（講師：薬剤科員／山田友子）

【狭山病院】

- 7月22日 納涼祭
- 8月1日 地域連携診療計画管理料、地域連携診療計画退院時指導料届出受理
- 8月22日 NST（Nutrition support Team）委員会発足
『患者の栄養状態の判定と、最もふさわしい栄養管理をする』
- 8月24日 医療監視
- 9月1日 日本内科学会教育病院の認定を受ける
- 9月15日 第4回地域医療支援病院運営委員会開催 出席者16名
- 院内勉強会
 - ・ 7月11日 『救命処置について・院内コース開催について』 参加者90名
 - ・ 7月14日 『食育で職育 Part 2』 参加者48名
 - ・ 9月8日 『現場の感染管理を極めよう』 参加者57名
 - ・ 9月14日,21日 『NSTとは……～より良い栄養管理のために～』 参加者187名
 - ・ 9月29日 『院内安全管理システムの確立』 参加者65名
- 地域医療連携・公開カンファレンス 参加者45名
 - ・ 7月21日 『大腸癌薬物療法～最新の動向～』（講師：埼玉医科大学臨床腫瘍科／佐々木康綱）
 - ・ 9月7日 『P E I T 勉強会』（講師：甲状腺代謝内科部長／小野田教高）参加者12名
 - ・ 9月22日 『わが国における慢性腎臓病（CKD）の現状と対策』（講師：診療部長兼内科部長／新津義文）参加者28名

【川崎胃腸病院】

- ・ 9月15日 医療監視

【川崎幸クリニック】

- 9月16日 院内研究発表会
- 気功教室 講師 臨床心理士 稲富正治
 - ・ 7/13,19 参加計9名
 - ・ 8/9,23 参加計14名
 - ・ 9/7,22 参加計11名

- 食事の教室 管理栄養士

- ・ 7/20 8/24 9/21

『肥満、脂肪肝の改善』～夏直前、減量にチャレンジ～、他3題

参加者54名

【さやま総合クリニック】

- 外来糖尿病教室 ※各回4日で1講座です。8月は未開催。
 - ・ 7/4 9/6 7/11 9/13 7/18 9/20 7/25 9/27 『糖尿病とは』、他 8回実施
- 栄養室主催外来栄養教室 7月25日, 8月30日『豆製品の栄養効果と摂取量』 参加者5名
- 患者サービス向上委員会主催健康教室 9月2日『癌の発生と予防』（講師：河村院長）参加者20名

【アルファメディック・クリニック】

- 9月14～15日 第47回日本人間ドック学会学術大会参加
- 9月14～15日 第1回国際人間ドック会議参加

【川崎健診クリニック】

- 9月11日 社団法人全国労働衛生団体連合会 精度管理参加

【オリーブ】

- 8月20日 3B体操（講師：狭山病院看護師／松本冷子）参加者30名
- 9月13日 青空サロン（原集会所にて）参加者25名

【新緑会】

※立川若葉町脳神経外科

- 7月23日 多摩らいふクラブ主催院長講演
『こうすれば未然に防げる脳の病気』参加者120名
- 9月7日 救急の日にあたり、東京都知事より感謝状受領
- 9月8日 救急医療協力者表彰2名（小尾、志摩）

※立川介護老人保健施設わかば

- 7月30日 納涼祭開催 参加者約200名



撫子